

2026 AIIT PBL

プロジェクト成果発表会

日 時

令和8年2月11日(水) 9:30~16:45

場 所

学内対面ならびにZoomオンラインによるハイブリッド開催

タイムテーブル

開 会		9:30~ 9:45	学長挨拶	
成果発表	午前1の部	9:45~10:15	トラックA (269展示室)	トラックB (東京夢工房)
		10:15~10:45	岡崎PT	河西PT
	〈休憩〉	10:45~10:55	休憩 (10分)	
	午前2の部	10:55~11:25	飛田PT	前田PT
		11:25~11:55	中鉢PT	吉田PT
	ブース発表	11:55~12:25	浪岡PT	三好(祐)PT
		12:30~13:30	前半	
	午後1の部	13:00~13:30	後半	
		13:30~14:00	松尾PT	内山PT
	午後2の部	14:00~14:30	細田PT	越水PT
		14:30~15:00	板倉PT	高嶋PT
	〈休憩〉	15:00~15:10	休憩 (10分)	
	午後2の部	15:10~15:40	三好(き)PT	村越PT
		15:40~16:10	奥原PT	林PT
		16:10~16:40	小山PT	田部井PT
	16:40~16:45		講評	

AIIT (東京都立産業技術大学院大学) とは

東京都立産業技術大学院大学では、起業・創業・事業承継などを通して未来の価値づくりを担う「事業イノベーター」を育成する事業設計工学コース、情報分野のスーパープレイヤーである「情報アーキテクト」を育成する情報アーキテクチャコースと、感性と機能の統合デザイナーとしてイノベーションをもたらす「ものづくりアーキテクト」を育成する創造技術コースという3つのコースがあります。

►PBL (Project Based Learning) とは、高度専門職人材として必要となるコンピテンシーを実践的に身につけるための実務体験型教育を指します。プロジェクトの明確なゴールを設定し、課題を達成する過程で、IT業界及びものづくり業界で真に役立つ実践的なスキル、ノウハウ及びコンピテンシーを身につけることができる教育手法です。

発表テーマ一覧

PT所属コース：事業設計工学コース

情報アーキテクチャコース

創造技術コース

		トラックA (269展示室)	トラックB (東京夢工房)
午前1の部	9:45 ～ 10:15	ソフトウェア開発効率向上のためのAIコーディングの導入と実践 情報:追川PT	5年後の移動体験を創造する次世代モビリティの提案 創造:上田PT
		大規模言語モデル(LLM)の推論は、API利用に加え高性能かつ軽量なモデルの登場を背景に、オンラインの運用も活発化している。本PTでは、多様な機能を備えた約五万行規模のAI要約議事録アプリの開発実践を通じ、ローカルLLMを組み込む手法を検討し実装した。開発ではスクラム開発による段階的な機能追加と継続的なフィードバックを重視したAIコーディングの活用により、迅速な機能展開を実現した。	本PTでは、日本の移動の効率化が進む現在、風や景色に身体が直接応答し、自ら操作しながら進むという移動体験がもたらす価値に注目した。そこで移動を単なる「手段」ではなく「体験」と捉え、新たなモビリティの可能性を探った。こうした体験を実際に愉しむバイク乗りに着目し、リサーチから見出された解放感や非日常という価値を、天候や安全面といった制約下でも成立させることを目指し、仮説検証を繰り返し要素を段階的に統合した。本発表では、そのプロセスと創造した新しいモビリティ「SPLC」を提案する。
午前2の部	10:15 ～ 10:45	人とAIの共創 情報:岡崎PT	未来の広告 創造:河西PT
		本PTメンバー6名は、個々人の問題意識に基づき、1人につき1つの共創AIプロジェクトを推進した。後期PBL活動では、各プロジェクト内容を統合しメンバー全員で考察した。結果、共創AIを「人間とAIが協力しあって、新しい価値を生み出していくこと」と定義するに至った。加えて、人とAIの相互作用は一様ではなく、目的や状況に応じて複数のパターンが存在することが示唆された。発表では、6つのプロジェクト紹介を通じ、関与の度合いや主導権の所在の異なる多様な人とAIの共創のあり方を提示する。	2025年、人々の注意力を資源として奪い合う「注意経済」の進行とともに、アルゴリズムによるデータ最適化に人々が晒されている。本PTは情報の氾濫への気づきを促すとともに、今後物理世界でも進展しうる「偶然の喪失」に抗い、受け手の主体性を促す「未来の広告」を構想した。デジタルな情報処理だけでなく、身体性に訴えかける人工物とのインテラクションを通じて、納得感のある合意形成を導く仕組みを提案する。本PTの成果は現在ある兆候を元に、2050年の未来に向けて想像力の橋を掛ける試みである。
午前2の部	10:55 ～ 11:25	2D・3D地図情報の新しい利活用の提案 情報:飛田PT	グローバルサウスにおけるデジタルSDGs実現の政策提言 事業:前田PT
		国交省は、オープンな地図情報を提供しており、街づくりや防災、環境対策など幅広い分野で利活用が進んでいる。データを場所と結びつけて整理でき、手軽に扱えるため、防災・農業・流通などへの高度な応用が期待される。具体的には、地理情報システム技術を活用し、建物画像・衛星画像等の画像データと、3D都市モデルをはじめとする空間データを組み合わせることで、地域の特徴を地図上で可視化できる。本PTでは、様々な公開データを分析し地図情報に統合する手法を、具体的な地域で実行したデモを紹介する。	グローバルスタンダードへのConnectivityをメインテーマに、アジア・アフリカの特定国・地域を対象として、SDGs及びDXを基盤とした経済・社会発展の方策を検討した。Physical・Institutional・People-to-Peopleの3つを切り口に、グローバルスタンダードへの橋渡しとなる政策提言を行い、現地政府高官への直接提言や、現地大学との共同研究を通じたデジタルSDGs実現の政策提言を実施した。
午前2の部	11:25 ～ 11:55	人の行動を促す人を中心のナレッジマネジメントツール開発 情報:中鉢PT	集合住宅に緩い繋がりプロジェクトBeACTO日吉からの学び 事業:吉田PT
		従来のナレッジマネジメントツールは、個人の保有するナレッジの共有にとどまり、新たな知識を生み出す場を提供するという観点が十分に考慮されていない。新たな知識は既存知識の組み合わせによって創出されるが、単なる共有や検索のみでは知識創造は促進されにくい。本PTでは、新たな知識創出に必要な人間の行動を支援・促進する役割を担う存在をナレッジマネジメントのファシリテーターと定義し、その活動を後押しする行動のきっかけとして機能するツールの設計及び開発を行った。	都市部の集合住宅では近所付き合いが希薄であるが、管理や防災にはコミュニティが重要である。本PTは、意図的に設計された交流は心理的ハードルが高い場合があることに気づき、対照的にゴミ置き場や砂場での日常的な「自然発生的な機会」は、個々の流動的な欲求に寄り添うきっかけとして機能する。BeACTO日吉の事例等を通じ設計と自然発生が補完し合う循環モデルにより、誰もが自然に参加したくなる居場所作りを提案する。
午前2の部	11:55 ～ 12:25	社会課題の解決に向けたデータ分析手法の検討 情報:浪岡PT	京浜運河の地域活性化(データ起点の政策提言) 事業:三好(祐)PT
		本PTは、行政・企業から提供を受けた実データと向き合い、社会課題解決に向けたデータ分析手法を検討した。前期はデータ分析基盤の整備やLLM・GNN等を用いたデータ分析手法の検証を行った。前期の活動で得た技術的知見を生かし、後期は健康と要介護の中間状態であるフレイルの課題解決を主軸に、ユーザ投稿データやレセプトデータ等を多角的に分析した。フレイルの潜在的な兆候やナレッジを抽出し、行政サービスや商品へのマッチング等、フレイルの対策に資する新サービスとデータ分析手法を検討した。	本PTでは、京浜運河(天王洲周辺)の水辺資源を点から線へ繋ぐため、現地視察・関係者ヒアリングと区民アンケート等を分析し課題を可視化した。学外で技術・事業性も検証し、品川区の情報発信改善を中心に実装可能な提言案と、地・産連携に向けた論点整理/協議の土台づくりを行った。データサイエンスの社会実装を主目的とし、各種データから導き出した分析モデルを改善策に繋げ、その成果を行政や観光事業法人への具体的な提言としてまとめ、地域の活性化と新たな価値創造に貢献することを最終目標とし活動した。

午後1の部		午後2の部		
		トラックA (269展示室)	トラックB (東京夢工房)	
13:30 ～ 14:00	からくり人形を活用した 新規ビジネス創出	事業:松尾PT	離れた家族をつなぐ パートナーロボットの提案	創造:内山PT
	本PTでは、江戸時代から伝わる精巧な機構と独特的の美意識を兼ね備えるからくり人形を、現代の技術・素材および感性と掛け合わせることで新たな魅力を創出し、子ども向け製品の事業展開を検討した。エンジニアリングの観点からは、3Dプリンター等を活用し製品の設計・試作を行った。試作品をワークショップに提出し、子どもや親からも高評価を得た。マーケティングの観点からは、モノからサービスへの拡張の考え方を軸に、親向けのコンテンツを提供する事業者との価値共創を示す経営理論モデルを検討・開発した。		本PTは、人との共生を目指すパートナーロボットの提案を通して未来の豊かな暮らしの実現を目指す。近年、孤独・孤立は社会的な課題として認識され、一人暮らしの二十から三十代にその傾向が強いとされる。そこで、生活リズムの差から家族との連絡をためらうことが要因の一つと捉え、ロボットを介した関わりの可能性を検討した。本発表では、日常の中で離れている家族のつながりを、そっと支えるパートナーロボットのコンセプトを提案する。	
14:00 ～ 14:30	フードロス解消モデルの 可能性検証	事業:細田PT	ウェルビーイングAI (やりがい 想起・情報疫学を用いた分析)	創造:越水PT
	本PTは、肥後銀行が提供するフードロス削減プラットフォーム「かせする」を研究課題とし、フードロスビジネスの可能性を検証した。ユーザー・事業者アンケート、取引データ分析を通じ、収益性と運営負荷に加え、利用者の環境意識や行動変容の実態を分析した。さらに、環境教育の啓発活動の検証を踏まえ、フードロスビジネスの成立条件と限界を明らかにした。		本PTはウェルビーイングAIの研究目的とし、行動ログと主観的幸福感(SWB)の関係性を分析することで、幸福度に影響を与える因果構造の解明を目指すものである。日常行動データを継続的に収集・分析し、個人レベルでの幸福感変動を推定する手法を検討した。加えて、都道府県別統計データを用い、地域特性と幸福度の関係性をモデル化し、社会的要因が幸福感に与える影響について考察を行っている。	
14:30 ～ 15:00	多摩地域に内在する特有の資源の 再評価と価値創出の取り組み	事業:板倉PT	未来の「移動」をデザインする	創造:高嶋PT
	首都東京に位置する檜原村は、豊かな自然資源に恵まれている一方で、高齢化や人口減少といった、日本各地の中山間地域に共通する課題を抱えている。本PTは、同村の未活用資源に着目した製品開発を行い、地域の素材に新たな価値を見出すことで、地域発の事業創出の可能性を探り、持続可能な社会を実現を目指す。また、玉川上水を対象に、その公共性の変遷を3段階モデルで分析する。行政ヒアリングから露呈した管理の分断を課題とし、安積疏水との比較を通じて、持続可能な価値創出を提言する。		本PTでは移動量と幸福度の相関に着目し、10年後を想定として幸福度を上げる移動のあるべき姿を検討した。技術的には移動の不自由が解消されてきている一方、移動困難者との間に残る「心のバリア」の解消を課題とし、双方が自然に対等な立場で関わり合える「分断のないサードプレイス型モビリティ」を考案した。AIキャラクターによる車内ファシリテーターの導入やフラットで包み込まれるような車内デザインにより、誰もが出かけたい気持ちに素直になり移動で喜びや繋がりを感じられるような移動空間を提案する。	
15:10 ～ 15:40	ワークエンゲージメント向上の ためのソリューションの開発	情報:三好(き)PT	自転車用安全運転支援 システムの開発	創造:村越PT
	本PTでは、ワークエンゲージメント向上を目的に、前期はインタビュー調査からの質的分析によって、OJTの課題、早期離職の要因、ハラスメントの実態について、問題構造を整理した。後期は、分析結果に基づき、OJT場面で当事者目線に立って協調的なふるまいを学ぶ「OJTシミュレーション型ワークショップ」、ハラスメントの兆候を可視化する予防アプリ「S.A.F.E」を開発した。試行と改善を重ねてプラッシュアップし、有効性を検証した。これらの開発プロセスと知見はブックレットに取りまとめた。		本PTでは、自転車事故の増加傾向を背景に自転車用スマートヘルメットを活用した安全運転支援システムを開発した。違反および安全な行動の検知機能を備えたスマートヘルメットと運転支援アプリを連携させ、走行中の行動データを基に安全運転を支援する仕組みを設計。プロトタイプにおいては、想定される違反および安全な行動の一部を対象として検知機能を実装し、性能評価を行った。評価結果から、検知精度や処理の安定性に関する一定の傾向を把握し、システムの性能特性を確認した。	
15:40 ～ 16:10	セキュリティマネジメント 支援ツールの開発	情報:奥原PT	人材の採用・育成・知識活用を 支えるAI/MAS技術	創造:林PT
	現代社会では、情報セキュリティのリスクが増大しており、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の理解と活用不足が、多くの企業にとって大きな課題となっている。本PTでは、この課題解決に貢献するため、ISMSを支援するツールの開発を行った。ツール開発後アンケートを実施し、得られたデータに基づく分析を行った。企業活動に貢献できる実社会で活用可能なソリューションを提案することで、「情報セキュリティをより身近に、実践的に理解できる社会」の実現を目指す。		本PTは、超高齢社会における労働力不足に対して、人材の採用・育成・知識活用を支えるAI/MAS技術にてアプローチする。「LLMを活用したAI面接訓練による就職支援」では、就活生へ修正ループを抑制し回答改善を行う面接訓練システムを提案する。「短期的業務効率化と長期的技術者育成の両立」では、技術者の成果と育成投資効果をMASで評価しながら手法を提案する。「対話型AIにおける知識ギャップ検出と補完の自律制御」では、RAG根拠を構造化し回答を判定して知識補完を制御する。	
16:10 ～ 16:40	学修負担の軽減を目的とした PaaSの設計及び実装の試み	情報:小山PT	行動変容理論を用いた 健康づくり政策プログラム開発	創造:田部井PT
	クラウドサービスの発展によりインフラストラクチャの構築や管理が容易になった。クラウドサービスのモデルにはIaaS、PaaS、SaaSの3種類があり、そのうちPaaS(Platform as a Service)は用いることでアプリケーションのWeb公開や運用を容易に設定できる。しかし、PaaSの操作には専門的な知識が必要であり、初心者にとっては学修負担が高い。本PTでは学修負担の軽減を目的としたPaaSの設計及び実装を試みた。		健康づくりにおける課題の一つは、健診をはじめとした予防医療や日頃の運動などの健康増進活動への市民の主体的な参加と継続による行動変容の実現である。本PTでは、科学的エビデンスに基づく効果的な健康づくり施策の開発と、その成果を評価するプロセスを確立することを目指している。デザイン思考に基づくプロトタイプを実装し、外部評価を経て行政への政策提言を行う。	

PBLの年間スケジュール

Year 1

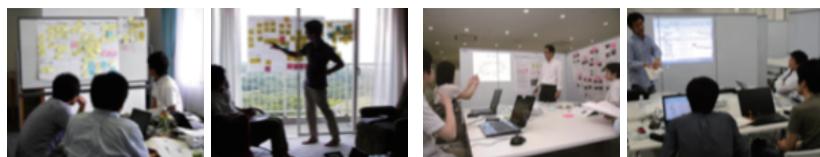
- 1月 PBL説明会
- 2月 チーム配属
- 3月 キックオフ
- 4月 1Qの活動
- 5月
- 6月 2Qの活動
- 7月 中間成果発表会
- 8月 成績判定
- 9月
- 10月 3Qの活動
- 11月
- 12月 4Qの活動
- 1月
- 2月 最終成果発表会
- 3月 成績判定・修了

PBL説明会

チーム配属

キックオフ

1Qの活動



グループワーク

チームミーティング

2Qの活動



成果物の製作

フィールドワーク

中間成果発表会

成績判定



最終成果発表会（会場展示）

3Qの活動

4Qの活動

最終成果発表会

成績判定・修了



最終成果発表会（プレゼンテーション）

※写真は過年度のものです

ごあいさつ

AIIT PBLとは、専門性を有する社会人学生のコンピテンシーを更に向上させる本学独自のメソッドを意味します。

このメソッドにより成長した学生が産み出したプロジェクト成果は、複雑な現実社会に新たな価値を示し、実装可能性を考慮しているため、そのまま、社会貢献に直結するものがあります。

今回の発表では、IT、デザイン、AI、および各種テクノロジーを駆使して、情報分野、モノづくり分野、事業戦略分野の将来を導くような成果が見いだされ、国内のみならず国外の関連機関が注目しているものもあります。高度な知識とスキルを学修した学生の発表にご期待ください。



学長 橋本 洋志

ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY



東京都立産業技術大学院大学

〈お問合せ先〉

管理部管理課教務学生係 〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40

Tel : 03-3472-7834 Fax : 03-3472-2790 URL : <https://aiit.ac.jp/> E-mail : info@aiit.ac.jp